

ハイエナくんのプリント

西川 弓佳

「また、ウサギじゃないか！」

森の奥深く、動物たちが集まる『イノシシ書店』の店先で、ハイエナのフッチは、いつものように大声を上げました。

「やれやれ……」

イノシシばあさんは、あきれ顔で本棚にはたきをかけています。

フッチは人間の絵本が大好きで、いつも新しい絵本が届くのを楽しみにしているのですが、一つ、大きな大きな不満がありました。主人公はいつもほかの動物ばかり。ハイエナが主人公の絵本をフッチはまだ見たことがありません。ときどき絵本の中にハイエナが出てきたと思ったら、意地悪な悪役だったりします。

「ライオンだってトラだって、絵本で人気者なのに、どうしてハイエナだけ嫌われ者なのさ」

フッチが、うらめしそうに本棚を見上げた時、カッコウが大きく鳴きました。

「人間がきたぞー」

カッコウの飛んできた方を見ると、人間の子どもの声が聞こえてきます。

「リスは、いるかしら」

「ぼくは、アライグマが見たいな」

辺りにいた動物たちは、いそいで木陰へ走ります。

イノシシばあさんが、お店に草で作った覆いをかぶせるのを手伝ったフッチは、少しかくれるのが遅れました。

フッチのシッポが、ひよろりと茂みのかげで、ゆれていきます。

おとなの人間がいました。

「あ、うす茶色のシッポだ。キツネかな？ ハイエナかな？」

「やだ、ハイエナ、こわい」

「油断してはいけないな。ハイエナは、ずるがしい生き物だから」

思わずフッチは叫びます。